

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2471400131
法人名	医療法人 ネオポリス診療所
事業所名	グループホーム 若返り
所在地 (電話番号)	三重県いなべ市大安町大井田2836 (電話) 0594-88-0900
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 5 月 16 日(金)

## 【情報提供票より】 (H20年5月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 4.3人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円
敷金	有( 45,000 円)		
入居負担金 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 昼食代に含む 円
	または1日あたり 円		

### (4)利用者の概要( 5 月 1 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 80 歳	最高 91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	いなべ総合病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の西部に位置し、河川、田園に囲まれた静かな環境にあり、デイサービスと併設する2階建ての2階が当事業所である。室内は木の造りで、床はフローリングで温かみがある。管理者はじめ職員は笑顔で、明るく職員間の協調性もよく、ケアにおいては、利用者の思いをくみとれる支援を目指している。調査日に緊急状態の利用者(誤嚥の疑い)に対して的確な処置がされており、職員の緊急時の対応のよさが感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの理念、理念の共有、地域とのつきあい等については日常のケアの中で話し合い意思統一を図っている。職員の研修、同業者との交流も徐々に質の向上を目指して取り組まれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員に、自己評価票を配布、記入した後に管理者、職員が話し合いまとめた。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議の開催については利用者の家族、民生委員等に話し掛けているが、現在のところ実施には至っていない。今後は積極的に市の包括支援センター、自治会等への協力要請をすすめ開催に向けて取り組んでいただきたい。</p>
重点項目②	
重点項目③	<p>玄関に目安箱を設置しているが、苦情等の訴えはない。家族の面会時に意見等は話してくれる。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記されているが、外部の苦情相談窓口の記載が明確でない。具体的に記載される事を期待する。</p>
重点項目④	<p>事業所の立地環境が河川を超えた地域が自治会のため住民との日常的な交流は難しい。近隣のスーパー等買い物に出かけた時に話し掛けはしている。また、市が開催する行事(文化祭)に参加し交流に努めてはいる。利用者の作品も出展したことがある。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	小規模事業所でできることは、家庭的でゆったりして自宅と同じ環境で「心の拘束をしない」暮らしができる事を理念とし話し合っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は階段の壁に掲示され、「心の拘束をしない」を基本に管理者、職員が、申し送り等で利用者の特性をどのように支援するのかを日々話し合っている。		
<b>管理者、職員</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地環境から自治会への加入、行事への参加は日常的には難しい。近隣のスーパーへの買い物、散歩に出かけた時に話し掛けている。市の行事(文化祭)に参加し交流するようにも努めている。利用者の作品を出展した事もある。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員各自に自己評価票を配布し記入後に、管理者、職員で話し合いまとめた。外部評価も管理者、職員と事業所の現状を話し合い徐々に改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、民生委員等に話しかけているが、運営推進会議の実施には至っていない。	○	運営推進会議は定期的に行われ、事業所の取組状況が説明され、事業所の理解と支援を得る機会になるものなので、積極的に市包括支援センター、地域の協力をえて、早急に運営推進会議の開催を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市包括支援センター主催の研修に参加し困った事を相談している。また包括支援センターからの来訪もあり連携はよく取れている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の日常の様子を話している。月1回発行の「若返りだより」に利用者の日常の様子を記入送付している。金銭管理はしていない。利用者で家族との了解で小使いを持っている利用者はいる。必要になった買い物は事業所が立替払いの方法をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置しているが、家族からの苦情不満はない。家族の来訪時に意見等は口頭で話してくれる。苦情相談窓口等は重要事項説明書に明記されているが外部苦情相談窓口の記載が明確でない。	○	重要事項説明書への外部苦情相談窓口の記載はわかりやすく、正確に記入される事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職するまでの期間は利用者への伝え方に配慮している。退職後も利用者が寂しがる時には、電話で話してもらうように支援している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画の立案は業務の関係で難しいが、研修内容に適した職員を参加させている。研修後は報告書の作成もし、申し送り等で伝達をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市の同業者(グループホーム)とは電話による連絡をしているが、相互訪問等の活動までは至っていない。職員は個人的に同業者との連絡をしている。	○	今後は管理者、職員とも他の同業者と交流する機会を多く持ち、サービスの質の向上を目指すよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者、家族とは顔馴染みになるため訪問等で面接している。また、デイサービスを利用してもらい、家族が来訪して事業所の雰囲気に馴染むように努めている。		
の					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を敬う気持ちで、日常の食事の配膳、後片付け、洗濯物干し等を一緒にしながら助け合う関係になっている。		
CD					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情、態度で感じたことを話し合い、言葉に表わさない利用者の思いを引き出すように努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで利用者、家族からの意向を確認し3ヶ月に1回の担当者会議(管理者、ケアマネージャー、担当職員)で検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを行い介護計画を見直している。また、利用者の状態に応じて随時話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
で					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関(法人)に受診、買い物、イベントへの参加、ドライブ等利用者の要望に応じ職員と一緒に出かける支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関以外のかかりつけ医には、家族の協力で受診しているため、事業所から医療機関への連絡は取りやすい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族とは今後の重度化、終末期ケアについては事業所のできる範囲の内容を話し、その方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあつた言葉かけ、トイレ誘導、入浴介助等に配慮している。利用者の居室入り口の戸を開けておく事を好まない利用者には閉めるよう配慮している。書類等の個人情報の取扱いは周知されてる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調、気持ちを尊重し散歩、買い物、畑仕事、食事の後片付け等の利用者の意向に添うような支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(配膳)、後片付け等を利用者と職員が一緒に行い、話をしながら楽しんで食事をしている。利用者の食欲も旺盛だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴しており、利用者を2グループに分け入浴順番も公平になるように配慮している。利用者の気分等によって入浴しない時は他の日に変更する等の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること好きな事を見出し、食事の配膳、後片付け、畑仕事、洗濯物干し等が楽しみであり役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に応じて買い物、散歩、畑仕事、ドライブ等職員と一緒に出かけるよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、事業所入り口の扉(2階)居室は施錠されていない。昼間職員の目から死角になる非常口の扉には、防犯ブザーが設置され注意を惹起するよう工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、避難訓練は年1回消防署の協力で実施されている。平成20年は来7月に実施予定である。緊急連絡網は整備されているが災害時の地域の協力は得られていない。	○	災害時の地域の協力は重要であり、近隣の事業所(工場)への協力要請も依頼してみる事が望ましい。また、夜間の救援体制も検討される事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり開始ア					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者から購入、時に弁当も購入している。調理は事業所で行っており、利用者各自の食事摂取量、水分摂取量はカルテに記録されている。水分摂取量の少ない利用者には水分が取れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からは田園風景が眺められ、テーブルには季節の花が生けてあり、気のあった利用者同士が、話し合う等居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、エアコン、クローゼット、カーテン等が設置されている。利用者の好みでテーブルが持ち込まれ、家族の写真、花等が飾られ、利用者それぞれが落ち着いて過ごせるようになっていた。		